

和歌山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	英語表現
科目基礎情報						
科目番号	0011		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	知能機械工学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Key Note 1, by David BOHKLE, CENGAGE Learning					
担当教員	マーシュ デイビッド					
到達目標						
1. To be able to conduct satisfactory oral communication about basic topics. 基本的な事柄について、英文で自分の考えを明確に表現できる 2. To make oneself understood through a short speech about a given topic. ショートスピーチを通して、相手に理解してもらう						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	簡単な語を用いて書かれた、個人的に興味のあるトピックや物語を、イラストや写真を参考に理解することができる。		ある程度簡単な語を用いて書かれた、個人的に興味のあるトピックや物語を、イラストや写真を参考に理解することができる。		簡単な語を用いて書かれた、個人的に興味のあるトピックや物語を、イラストや写真を参考にしても理解することができない。	
評価項目2	自分自身や自分の身の回りの事柄や、買い物や外食の際の指示や説明について、ゆっくりと明確に話されれば、理解することができる。		ある程度自分自身や自分の身の回りの事柄や、買い物や外食の際の指示や説明について、ゆっくりと明確に話されれば、理解することができる。		自分自身や自分の身の回りの事柄や、買い物や外食の際の指示や説明について、ゆっくりと明確に話されても、理解することができない。	
評価項目3	自分の経験、趣味や好き嫌いについて、辞書を利用しながら、簡単な語や基本的な表現を使って、また複数の文を用いて書くことができる。		ある程度自分の経験、趣味や好き嫌いについて、辞書を利用しながら、簡単な語や基本的な表現を使って、また複数の文を用いて書くことができる。		自分の経験、趣味や好き嫌いについて、辞書を利用しながら、簡単な語や基本的な表現を使って、また複数の文を用いて書くことができない。	
	前もって用意した上で、日常生活や科学分野の身近なトピックや簡単な事実について、複数の文を用いて意見を述べたり描写したりできる。		ある程度前もって用意した上で、日常生活や科学分野の身近なトピックや簡単な事実について、複数の文を用いて意見を述べたり描写したりできる。		前もって用意した上でも、日常生活や科学分野の身近なトピックや簡単な事実について、複数の文を用いて意見を述べたり描写したりできない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	目的は、活発なコミュニケーションを通して英語を学ぶことです。					
授業の進め方・方法	新しい表現と語彙を学び、ペアやグループで練習します。 小テストとリスニングで復習する。					
注意点	授業の前に次のページを読んで、知らない単語の意味を調べてください。授業の後に復習してください。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス & Key Note 1 Unit 1		現在形を用いて映画、音楽の好き嫌いについて質問に答えたり話すことできる。	
		2週	Key Note 1 Unit 1		現在形を用いて映画、音楽の好き嫌いについて質問に答えたり話すことできる。	
		3週	Key Note 1 Unit 1		現在形を用いて映画、音楽の好き嫌いについて質問に答えたり話すことできる。	
		4週	Key Note 1 Unit 2		現在形と頻度の副詞を用いて習慣や日課について話することができる。	
		5週	Key Note 1 Unit 2		現在形と頻度の副詞を用いて習慣や日課について話することができる。	
		6週	Key Note 1 Unit 3		「would like to」、「hope」、「wish」を使って職業と経歴について話すことができる。	
		7週	Key Note 1 復習		Key Note 1 Unit 1 ～ 3 の復習	
		8週	スピーチ・テスト		英語で発表する。	
	2ndQ	9週	Key Note 1 Unit 4		「can / can't」と能力の副詞を用いて自分のできることについて英語で説明することができる。	
		10週	Key Note 1 Unit 4		「can / can't」と能力の副詞を用いて自分のできることについて英語で説明することができる。	
		11週	Key Note 1 Unit 5		形容詞を用いて物を説明することができる。数量詞を使うことができる。	
		12週	Key Note 1 Unit 5		形容詞を用いて物を説明することができる。数量詞を使うことができる。	
		13週	Key Note 1 Unit 6		時間条項を用いて一連の出来事を説明することができる。	
		14週	Key Note 1 Unit 6		時間条項を用いて一連の出来事を説明することができる。	
		15週	Key Note 1 復習		Key Note 1 Unit 4 ～ 6 の復習	
		16週	定期試験		定期試験	
後期	3rdQ	1週	Key Note 1 Unit 7		人の外見と性格を記述することができる。	
		2週	Key Note 1 Unit 7		人の外見と性格を記述することができる。	

		3週	Key Note 1 Unit 8	形容詞の比較級と最上級を用いて物を比べることができる。
		4週	Key Note 1 Unit 8	形容詞の比較級と最上級を用いて物を比べることができる。
		5週	Key Note 1 Unit 9	過去形を用いて過去のことについて話すことができる。
		6週	Key Note 1 Unit 9	過去形を用いて過去のことについて話すことができる。
		7週	Key Note 1 復習	Key Note 1 Unit 7 ～ 9の復習
		8週	スピーチ・テスト	英語の面接を受ける。
	4thQ	9週	Key Note 1 Unit 10	英語で提案をすることができる。「should / shouldn't」を使うことができる。
		10週	Key Note 1 Unit 10	英語で提案をすることができる。「should / shouldn't」を使うことができる。
		11週	Key Note 1 Unit 11	英語で自分の意見を与えることができる。感覚動詞を使うことができる。
		12週	Key Note 1 Unit 11	英語で自分の意見を与えることができる。感覚動詞を使うことができる。
		13週	Key Note 1 Unit 12	現在の状況についての話に条件文を使うことができる。
		14週	Key Note 1 Unit 12	現在の状況についての話に条件文を使うことができる。
		15週	Key Note 1 復習	Key Note 1 Unit 10 ～ 12の復習
		16週	定期試験	定期試験

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	発表	小テスト	合計	
総合評価割合	40	30	30	100	
配点	40	30	30	100	